小型塚と減少する。

構築規模を年代的に見ると大型塚は明治時代に八〇％が、中型塚は昭和時代に六七％が、小型塚は昭和時代に四五％で、各々主体に構築されている。超小型塚は、各時代均一的であるが、大正時代が四〇％を占めている。

構築年代から見ると、江戸・大正時代は大型塚の構築なく、中型～超小型が少数均一的構築。明治時代は、大型塚が五〇％の主体構築であり、他、中型～超小型が少数均一的構築。昭和時代は、中型塚が五〇％の主体構築であり、次いで三〇％の小型塚で、大型・超小型塚が少数均一的構築である。

類別による規模では、A類は、大型塚の構築が五〇％と主体であり、次いで中型塚に三三％を、小型塚に一七％を構築している。B類は、小型塚が五〇％と主体構築され、次いで超小型塚に三三％を、中型塚に一七％の構築である。C類は、大型塚～小型塚まで、D類も、中型塚～超小型塚が共に少数均一的に構築されている。F類は大型塚のみ一例、G類は小型塚のみ一例の共に特異例である。

（六）まとめ

房総の富士塚の管見に触れたのは、江戸創建塚八例、明治創建・再建塚十四例、大正創建塚四例、昭和創建塚二例、他一例の二十九例の僅少例に過ぎず、九牛の一毛を推察するのに等しいことで、多く知見を得られぬことであるかも知れぬが、収集した現状の資料から若干の事実を知り得ることができた。

塚に伴う諸施設の設置は、富士塚としてのその規範を満たすものではない。比較的普遍性を有する設置施設は、溶岩敷設・登山道付設であり、必要石造物は不可欠の「主神」碑を除外すれば、「小御岳神」碑が普遍的遺存の唯一例である。

塚正面方位は一定せず、他地域構築の富士塚同様、間接的に富士山を遥拝する意図の構築ではない（富士塚一覧）。

塚形態は、B類、即ちマウンド断面形が最多であると共に、江戸・明治・昭和時代わたり普遍的に構築されている。

江戸・明治・昭和時代はB類を主体に、大正時代はB・D類主体に構築される。

昭和時代はA～G類までの多形態を構築している。

A・B類は明治時代の構築が主体、C類は昭和時代の構築が主体、D類は、江戸・大正・昭和に少数均一的構築である。

塚規模は、大型構築は明治時代が主体で、富士山を彷彿させる形態でもある。中・小型塚は昭和時代が主体で、超小型塚は、江戸～昭和時代までの各期に少数であるが均一的な構築である。換言すれば、江戸・大正時代は、中型・小型・超小型塚が主体で構築され、明治時代は大型塚主体に、昭和時代は中型塚主体の構築である。

房総の富士塚も例外なく近年の改修築に伴い、少なからず旧来の形態を変貌させると共に、登攀のための富士塚が参拝塚化し、本来の構築趣旨が消失しつつあるが如きである。

塚の崩壊による危険防止、「碑」散逸防止によるなど要因からの配慮であろうが、先人の信仰的記念モニュメントは、可能な限り初見の形態を伝え遺したいものである。

註1　拙稿「富士塚考」『宗教社会史研究』Ⅱ　一九八五年・「埼玉県における富士塚の類型」『立正大学北埼玉地域研究センター年報』11　一九八七年

註2　拙稿「房総における塚の類型」『立正史学』四六　一九七九年

註3　拙稿「富士塚考」前出

註4　『富士講と富士塚』日本常民文化研究所調査報告4　一九八〇年

註5　『富士講と富士塚』前出

註6　岩科小一郎『富士講の歴史』名著出版　一九八三年・『富士講と富士塚』前出

註7　『富士講の歴史』前出

して異形状にある。

この他、近年のマウンド削平などにより、構築当時の塚形状を把握不可能の状態にある塚として、明治十三年創建の市原市「馬立大宮神社富士富士」と、塚としての体裁を止めない昭和十五年構築の同「前広神社富士」がある。

各時期における類型は、大きな差異は認められないが、B類が最多四〇％強を占めると同時に、江戸・明治・昭和時代にわたりB類が均一的に構築され普遍性を有する形態といえる。また、昭和時代はA～G類までの多形態を構築していることがみられる。

形態の時代別構築からは、A類は少数構築であるが、明治時代の構築が五〇％を占める主体であり、次いで昭和時代が三三％を占めている。B類は、明治時代に比較的多く構築され三三％が、次いで昭和時代に二五％の他、江戸・大正がこれに次ぐ。C類は、少数構築であるが、昭和の構築が六七％の主体である。D類は、江戸・大正・昭和に少数均一的構築である。F・G類は各一例の全塚の七％占めるに過ぎない特異な形態である。換言すれば、江戸・明治・昭和時代はB・D類主体と言えよう。

（五）規模

富士塚の規模は、概ね、塚高一〇メートル内外を超大型塚。五メートル以上を大型。四メートル内外を中型。三メートル未満を小型。一・五メートル未満を超小型塚と、筆者は分類している。房総における超大型塚は管見に触れていない。

規模別に分類すると、（富士塚一覧表参照）

大型塚

明治構築（A類）清水富士・飯塚富士・西深井富士。

明治構築（C類）浅間神社富士。

昭和構築（F類）請西八幡神社富士。

中型塚

江戸構築（A類）大和田富士。

明治構築（B類）伊豆島日枝神社富士。

大正構築（A類）東宝珠花日枝神社富士。

昭和構築（B類）子神社富士。

昭和構築（C類）飯山満大宮神社富士

小型塚

江戸構築（B類）八王子神社富士。

江戸構築（D類）今津朝山八幡神社富士。

明治構築（B類）夏見日枝神社富士・須賀神社富士。

大正構築（B類）駒形神社富士。

昭和構築（A類）八坂神社富士。

昭和構築（B類）長須日枝神社富士。

昭和構築（C類）横田神社富士。

昭和構築（D類）香取神社富士。

昭和構築（G類）藤崎富士。

年代不詳（B類）神明神社富士。

超小型塚

江戸構築（B類）宇土橋富士。

明治構築（B類）牛久神社富士。

大正構築（B類）三咲神社富士。

大正構築（D類）中谷原日枝神社富士。

昭和構築（B類）文京日枝神社富士。

大型塚は五例で全二十九例の一七％、中型塚は六例の二一％、小型塚は十一例の三八％、超小型塚は五例の一七％、他、削平により塚規模不詳二例の七％を占め、小型塚の構築が最多で、以下、中型→大型塚・超

昭和時代構築塚では、明治三十九年創建・昭和五十六年移築の船橋市「子神社富士」、明治十一年創建・昭和二年の木更津市「長須日枝富士」、大正七年創建・昭和四十七年の同「文京日枝神社富士」の三例、現況昭和時代構築塚の三〇％を占める。

その他、年代不詳の船橋市「神明神社富士」がある。

C類　三例　本類は房総富士塚の一〇％を占める。（図版三）

明治時代構築塚では、（伝）天保二年創建、明治十九年の流山市「浅間神社富士」の一例。現況明治時代構築塚の一二％を占める。

昭和時代構築塚では、昭和三年の船橋市「飯山満大宮神社富士」、明治十四年創建・近年の修復の袖ヶ浦町「横田神社富士」の二例。現況昭和時代構築塚の二〇％を占める。

D類　四例　本類は房総富士塚の一四％弱を占める。（図版四）

3　C類　浅間神社富士

4　D類　今津朝山八幡神社富士

江戸時代構築塚では、文政七年創建の市原市「今津朝山八幡神社富士」の一例で、現況江戸時代構築塚の二五％を占める。

大正時代構築塚では、大正二年の船橋市「仙元神社富士」、大正元年創建の市原市「中谷原日枝神社富士」の二例で、現況大正時代構築塚の五〇％を占める。

昭和時代構築塚では、明治十四年創建・近年修復改築の野田市「香取神社富士」の一例で、現況昭和時代構築塚の一〇％強を占める。

F類　一例　本類は房総富士塚の三％を占める。

昭和時代構築塚では、明治十五年創建・昭和十八年移築の木更津市「請西八幡神社富士」の一例で、現況昭和時代構築塚の八％強を占める。

G類　一例　本類は房総富士塚の三％強を占める。

天保四年創建の習志野市「藤崎富士」は、近年の修復のため富士塚と

1　A類　大和田富士

遺存している。現況江戸時代構築塚の二五％を占める。

明治時代再築・創建塚は三例で、江戸創建の関宿町「飯塚富士」は頂部に近年の補修痕がみられ、頂部付近マウンドが壇上になり若干富士山形状を乱すが、全体としては本類の範疇に入る。明治創建塚は、塚径に対し頂部が広大であるが野田市「清水富士」、典型的A類である流山市「西深井富士」がある。一者は高さ八メートル、後二者は高さ六メートルの大型塚で、かつ、三者共に登山道を具備した登攀のための規範の富士塚である。現況明治時代塚の三八％強を占める。

昭和時代再築・創建塚では、明治九年再築・昭和三十年代改築の関宿町「日枝東宝珠花富士」、明治十二年創建・昭和二十年代改築の関宿町「八坂神社富士」の二例で、前者は腰高、後者は偏平である。現況昭和時代構築塚の二〇％を占める。

2　B類　神明神社富士

B類　十二例　本類は房総富士塚の四一％を占める。（図版二）

江戸時代構築塚では、腰高化の元治元年創建の船橋市「全子神社富士」、背面がマウンド流出のためかマウンド流出により平面形が長円形化し、形態が偏平化する文政五年創建の市原市「宇土橋富士」の二例。現況江戸時代構築塚の五〇％を占める。

明治時代構築塚では、嘉永二年創建・明治四年改築の市原市「牛久神社富士」、同三十年改築の船橋市「夏見日枝神社富士」、明治十七年創建の野田市「須賀神社富士」、明治三十四年創建の木更津市「伊豆島日枝神社富士」の四例。現況明治時代構築塚の五〇％を占める。

大正時代構築塚では、明治二十六年創建・大正六年の流山市「駒形神社富士」、大正二年創建の船橋市「三咲神社富士」の二例。現況大正時代構築塚の五〇％を占める。

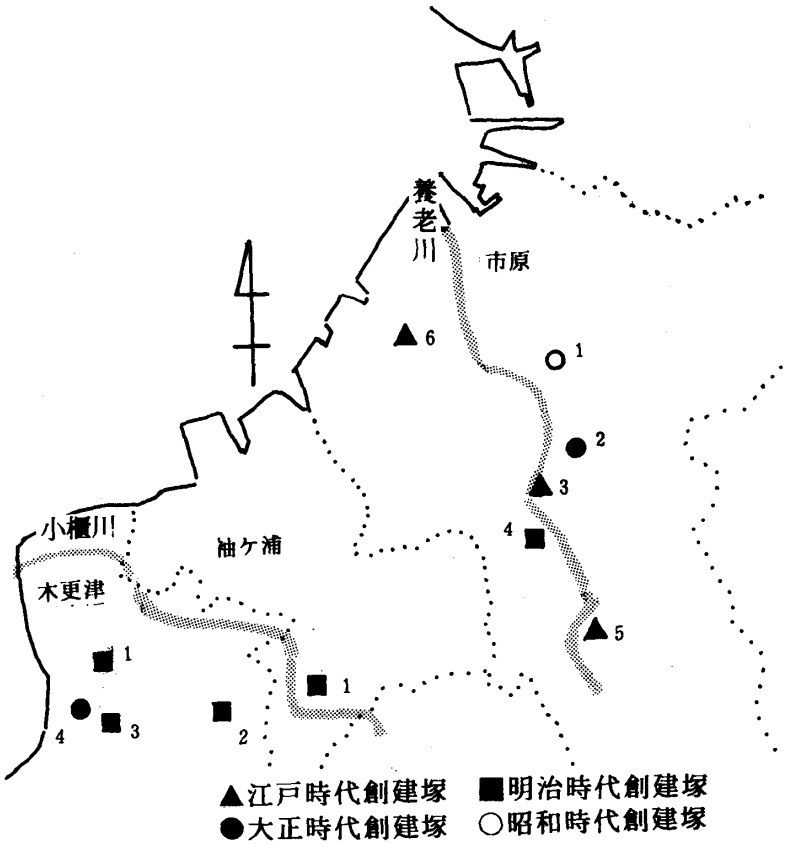
塚名	所在地	占地	正面方位	塚高(メートル) 前面	塚高(メートル) 背面	塚径(メートル) 前面	塚径(メートル) 側面	平面型	断面型(類型)	年代 創建	年代 現況	講社	備考
習志野市													
1 藤崎富士	藤崎1	平坦地	南々西	1.6		7		円	G	天保4	近年	富士講	近年の修復痕あり
八千代市													
1 大和田富士	大和田新田186	平坦地	南西	4.5		13.5	12	不整円	A	嘉永7	不明	不明	近年の修復痕あり
市原市													
1 前広神社富士	前広	斜面	西々南	2.8	0	9		不整平円	?	昭和15		中谷保	マウンド削平
2 中谷原日枝神社富士	海士有木中谷原	平坦地	南	1.5		7	6.5	方	D	大正1		山包	
3 宇土橋富士	中高根宇土橋	平坦地	東	1.2		6	5	長円	Bの偏平	文政5		山包	
4 馬立大宮神社富士	馬立1605	平坦地	南々東	1.5		6.5		不整円	?	明治13	?	月村・新田両区講	マウンド削平
5 牛久神社富士	牛久	平坦地	南西	0.8		11	9	不整円	B	嘉永2	明治4	不明	
6 今津朝山八幡神社富士	今津朝山	平坦地	南々西	2			9	円	D	文政7		一山	
木更津市													
1 長須日枝神社富士	長須	平坦地	西々北	2.5		6		円	B	明治11	昭和2	山水元	
2 伊豆島日枝神社富士	伊豆島	丘陵斜面	西	4	2.3	7	4	円	B	明治34		山包	
3 請西八幡神社富士	請西千束	丘陵斜面	西々南	7.5	0	(7)	(5)		F	明治10	昭和18移転	山水元	
4 文京日枝神社富士	文京6	平坦地	西	1.5		8	5.5	円	B	大正7	昭和47	山水元	
袖ケ浦町													
1 横田神社富士	横田	平坦地	南西	2.5		6.5		円	C	明治14		扶桑教	近年の修復痕あり

塚番号は分布図に一致

房総富士塚一覧

塚名	所在地	占地	正面方位	塚高(メートル) 前面	塚高(メートル) 背面	塚径(メートル) 前面	塚径(メートル) 側面	平面型	断面型(類型)	年代 創建	年代 現況	講社	備考
関宿町													
1 日枝神社富士	東宝珠花	平坦地	南々東	3.2		8.5	10	不整円	A	明治9年再築	昭和30代	丸宝	
2 八坂神社富士	次木	平坦地	南西	1.8		8.5	7.5	不整円	A	明治12	昭和20代	丸宝	
3 飯塚富士	飯塚	台地縁辺	南西	8		20		不整円	A	天明2	明治12	丸宝?	
野田市													
1 清水富士	清水公園内	台地縁辺	北々東	5.7		18		円	A	明治9		山参	
2 須賀神社富士	下町	平坦地	南々東	2		7	10	不整円	B	明治17		丸岩	
3 香取神社富士	上花輪	平坦地	南	2.7		7		不整円	D	明治14		山参	近年修改築痕あり
流山市													
1 浅間神社富士	流山1	平坦地	北々西	5.6		13.5		円	C	明治19		山一	
2 西深井富士	西深井	斜面下	南々西	5		8	14	不整円	A	明治16		不明	
3 駒形神社富士	東深井	平坦地	南々東	2		5	9	不整円	B	明治26	大正6	丸宝	
船橋市													
1 神明神社富士	高根町5－9	台地縁辺	東々北	2.3		10		円	B	不明		丸不二	
2 三咲神社富士	三咲2－17	平坦地	北西	1.5		8		円	B	大正3		不明	
3 八王子神社富士	古和釜町	台地縁辺	西々南	2.5		8	7.5	不整円	B	元治1		不明	
4 夏見日枝神社富士	夏見2－29	平坦地	西南	2.4		11		不整円	B	明治5		丸不二	
5 子神社富士	田喜野井3	斜面	西南	2.5		11	8	円	B	弘化3	昭和56移転	富士獄登山	明治39再築
6 飯山満大宮神社富士	飯山満町2	台地縁辺	西々北	3.7		9	5.7	不整円	C	昭和3		丸不二	
7 仙元神社富士	南三咲1	平坦地	南	3.2		16		円	D	大正2		割菱	

第2図　富士塚分布（市原地方）



するが、房総の富士塚で溶岩の多量被覆塚は六例程に過ぎず、河川流域占地塚十五例中の四例に過ぎず、溶岩供給と河川流域占地との関連性は稀薄である。

富士塚の占地は、東京圏内のそれは江戸時代創建塚の六四％、明治時代以降では八〇％が社寺境内構築が一般的であるのに対して、埼玉圏では江戸時代創建塚の三一％、明治時代以降では二一％が社寺境内と逆に〝野の塚〟が普遍的になる。この社寺境内・外の占地は、土地確保との関連性を示唆するものと想定していたが、房総では神社境内は、二十九例中の二十三例の八〇％が占地されている。うち、江戸時代創建塚は八例中の四例が境内占地であり、また・明治以降の〝野の塚〟僅か二例の極少例に過ぎない（房総富士塚一覧）。境内占地塚に対して、野の塚が発見難く管見に触れなかったことも考慮できるが、かかる占地は単に物理的に起因するもののみではなく、精神面も反映していたことを考慮せねばならないものであろう。

（四）類型

富士塚の形状は、概ね六類に分けることができる。

A類　頂部平坦面径が、底径の1／5程度、塚高が底径の1／3程度緩やかな傾斜面を有する最も富士山に近似する形態を典型とし、これに近似するものも含める。

B類　頂部平坦面と、傾斜面の境界が明確でなく、塚断面形が半円形に近似する。

C類　A類に近似するが、頂部平坦面径が狭小で、塚高が底径の1／3以上の腰高な断面径が円錐形に近似する。

D類　頂部平坦面が底径の1／2程度で、断面形が台形に近似する。

E類　平面・断面形が意図的に方形に構築した、祭壇化した富士塚の範疇外的形態。本類は房総地方に該当する塚はない。

F類　塚を構築することなく、斜面の一部を利用して「塚」に見たてた形態で、埼玉県「所沢富士」（明治十七年）、同美里町「二柱神社富士」（明治二十八年）、東京都品川区「居木神社富士」（昭和八年）などに構築例があるが、極めて稀有な形態である。

G類　近年の修改築により、本来の富士塚として大きく変貌した異形態を呈する。

A類　六例　本類は房総富士塚の二一％弱を占める。（図版一）

江戸時代創建塚では、八千代市「大和田富士」が唯一例である。頂部と登山道を近年補修し、背面・正面左裾部に若干の削平があるが良好に

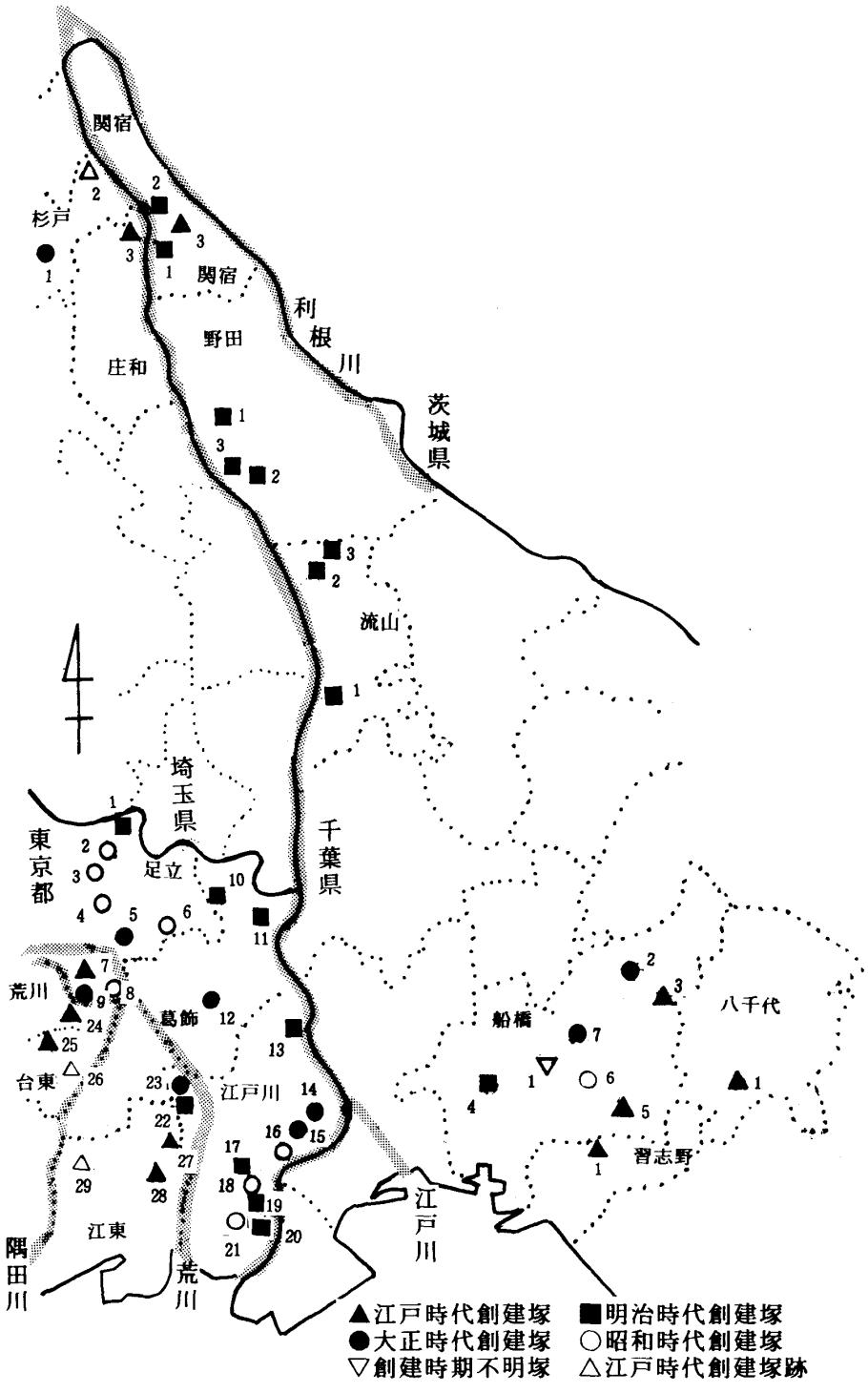
明治二十六年、と順次構築している。さらに、「山包」講社は、足立区「綾瀬富士・昭和二年築」。「一山」講社は、葛飾区「立石富士・大正十三年築」。「丸岩」講社は、江戸川区「逆井富士・明治十七年築」など、房総初築以降、近隣の江戸川下流右岸に富士塚を構築している。

また、江戸川右岸の埼玉県「宝珠花神社富士」に初築万延元年初築の「丸宝」講社は、左岸の関宿に前述三基のほか、埼玉県杉戸町「才羽富士・明治二十三年築」をも構築している。逆に、明治五年に江戸川区「下鎌田富士」・昭和五年に同「今井富士」を構築した「割菱」講社は、大正二年に船橋に進出構築しているなど、各々周辺に複数塚を構築して富士信仰の拠点拡大をなしている。

東葛飾地方北部の富士塚は、江戸川流域に沿った線状分布を呈するが、東葛飾地方南北部は群在分布（第一図）、市原地方東部は養老川流域に線状分布、市原地方西部は山麓から海岸を結ぶ線状分布（第二図）を呈している。

富士塚はその表面に溶岩を被覆させのが規範であるが、東京の富士塚の多くが、河川畔もしくはその近辺の占地が溶岩運搬との関連性を示唆

第１図　富士塚分布図（東葛飾地方・東京・埼玉）



◦東京の富士塚

1．花又　2．保木間　3．島根　4．小右衛門　5．綾瀬　6．五反野　7．川田　8．柳原　9．宮元　10．飯塚　11．金町　12．立石　13．小岩　14．篠崎　15．下鎌田　16．今井　17．船堀　18．桑川　19．長島　20．雷　21．中割　22．逆井　23．平井　24．南千住　25．下谷　26．浅草　27．本所　28．元八幡　29．深川八幡

◦埼玉の富士塚

1．戈羽　2．摩祖神社　3．宝珠花社

和田富士・講不明」、元治元年（一八六四）築の船橋市「八王子神社富士・講不明」の五例がある。

市原地方江戸時代創建富士塚の出現は、東葛飾地方に遅延四十年の文政五年（一八二二）築の市原市「宇土橋富士・山包講」、文政七年（一八二四）築の市原市「今津朝山八幡神社富士・一山講」、および、二十五年の空白を経た嘉永二年（一八四九）築の「牛久神社富士・講不明」の三例のみである。

房総における富士塚の盛行期は、房総初現の「飯塚富士塚」から、四十年の空白を置いた文政期以降の東葛飾・市原地方に点在的分布であるが、江戸府内での盛行期同様に中期末にあり、江戸創建はその絶対数が八例のみの極少例ではあるが、江戸創建塚中の六三％が中期で占めている。

また八例中三例は講名不詳であるが。講社の判明する塚相互間に同一母体による構築はない。

一体に江戸時代富士塚の構築は、一講社一基が一般的であるが、「丸藤」講社は、高田富士の他、東京都港区「鉄砲洲富士・一七九〇年築」・同新宿「成子富士・伝江戸期築」を、「月三」講社は、東京都豊島区「長崎富士・一八五七年築」・埼玉県川口市「青木富士・一八六〇年築」とその周辺に十九世紀中に三基を、「丸正」講社は、埼玉県花園町「中郷富士・一八五七年築」・同美里町「甘粕富士・一八六〇年築」・同寄居町「赤浜富士・一八六五年築」の三基など、三講社は複数を構築した稀有な例である。

明治時代にはいると、東葛飾地方では、丸不二講社による船橋市「夏見日枝神社富士・五年築」を初現とし、埼玉県北部の庄和町で万延元年に宝珠花神社富士塚を構築した「丸宝」講社が隣接する関宿町に「東宝珠花日枝神社富士・創建年代不詳、九年再築」と同「八坂神社富士・十二年築」を、および、流山市「駒形神社富士・二十六年築」の東葛飾北部に三例を構築している。「山参」講社は、野田市「清水富士・九年築」・同「香取神社富士・十四年築」の二例のほか、「丸岩」講社の野田市「須賀神社富士塚・十七年築」、「山一」講社の流山市「浅間神社富士・明治十九年」、および、講社不明の流山市「西深井富士・十六年築」までの五～六講社九例が構築されている。

市原地方では、「山水元」講社による木更津市「長須日枝神社富士・十一年築」・木更津市「請西八幡神社富士・十年築」の二例、「月村・新田両区」講社の市原市「馬立大宮神社富士・十三年築」、「扶桑教」の袖ヶ浦町「横田神社富士・十四年築」、「山包」講社の木更津市「伊豆島日枝神社富士・三十四年築」の四講社五例がある。

大正時代に入ると、東葛飾地方南部で、「割菱」講社による船橋市「仙元神社富士・二年築」、および、講社不明の船橋市「三咲神社富士・三年築」の一～二講社二例。市原地方では、「山包」講社による、市原市「中谷原日枝神社富士・元年築」、「山水元」講社が木更津市「文京日枝神社富士・七年築」の二講社二例がある。

昭和時代に入ると、東葛飾地方南部で、「丸不二」講社の船橋市「飯山満大宮神社富士・三年築」、市原地方では、「中谷保」講社の市原市「前広神社富士・十五年築」の二講社二例。

ほか、丸不二講社による創建年代不詳の、船橋市「神明神社富士」がある。

明治時代以降は、同一講社による複数の塚構築が多くなる。

房総の富士塚構築社で、講名確認できる十四講社中の六講社の時代を超えた複数構築例を瞥見すると、

文政期初築の「山包」講社は明治十五年・大正元年。明治九年初築の「山参」講社は明治十四年。明治十一年初築の「山水元」講社は明治十五年・大正七年。明治五年初築の「丸不二」講社は、昭和三年構築塚・年代不詳「神明神社富士」。明治九年再築の「丸宝」講社は明治十二年・

例で、全塚の五五％の過半数が規範構築され、明治創建塚は八〇％弱の塚が規範を踏襲している。規範外である石敷直線登山道は、大正創建塚の二例（同時期塚の五〇％）で、小規模構築による物理的に屈曲が不可のためであろう。さらに階段化している塚は、江戸創建三例（同時期塚の三八％）、明治二例（同一四％）、大正二例（同五〇％）の七例で、全塚二四％は近年の改修築により登山道を放棄している。

四　お中道の構築は、江戸創建一例（同時期塚の一三％）、明治一例（同七％）の二例で、全塚の七％を占めるに過ぎない。

五　合目標識の設置は、明治創建二例（同時期塚の一四％）、昭和一例（同五〇％の三例で、全塚の一〇％を占めるに過ぎない。

六　塚頂上ご神体碑・祠は全塚に遺存し、右記の如く多様多種の名称が銘記され、特に時代的差異は見られない。

七　「小御岳神」関係碑は、江戸創建七例（同時期塚の八八％）、明治十一例（同七九％）、大正三例（同七五％）、昭和二例（同一〇〇％）、時期不詳一例の二十四例で、全塚の八三％を占める最も普遍性を有する碑である。

なお、「小御岳神」関係碑は、江戸創建塚では飯塚富士在の明治在銘碑以外は、年号在否にかかわらず「小御岳石尊大権現」であるが、明治以降は夏見日枝社富士碑以外は、「石尊大権現」が附されていない。

八　「角行東覚」碑・像は、江戸創建二例（同時期塚の二五％）、明治一例（同七％）、大正一例（同二五％）、昭和一例（同五〇％）の五例で、全塚の一七％を占める。

九　「食行身禄」―角行東覚六代目の弟子富士講の元祖―碑・像は、江戸創建塚四例（同時期塚の五〇％）、明治六例（同四三％）、大正一例（同二五％）、昭和一例（同五〇％）の一二例で、全塚の四一％を占める。

（三）構築母体と分布

「飯塚富士」は、明治十一年建立の「小御岳神社」碑台座に「丸宝」の講名があるが、創建の構築母体である講社名を記す碑の遺存はない。

初現の「高田藤塚」は、「丸藤」講社による構築であるが、現在の確認では同講社構築塚は、志木市「上宗岡富士・明治五年創建」の荒川最上流とする埼玉圏内唯一構築例と、荒川下流域周辺部、江戸川右岸下流域の都区内の群在構築であって、飯塚富士塚との関連性をもなきものであろう。

一方、後年「飯塚富士塚」周辺に構築された富士塚は、すべて「丸宝」講社によるものである。

木間箇瀬村に「丸宝」講社自体の存在は確認されており、または、木間箇瀬村民が近隣に存在する同講社明治九年構築の「東宝珠花日枝神社富士」に関連していたが、[注6]「丸宝」講社の最古構築例は、対岸の江戸川右岸、埼玉県庄和町「宝珠花神社富士」であり飯塚富士塚と七十八年の時間的空白がある幕末の萬延元年（一八六〇）創建塚で、他は、明治時代以降の構築塚であり、「丸宝」講社との関連は稀薄である。

岩科小一郎氏によれば、「丸宝」講社の最古先達である藤左衛門は寛政三年（一七九一）没であるが、富士講祖と定め難い人物であり、[注7]「飯塚富士」構築に関与していたであろうが、「丸宝」講は後年の結社であろう。

従って『浅間祠重修記』の、「岩本祐直患之興衆謀首捐数十金為起土山擬富士山」の如く、岩本祐直を中心とする葛飾郡木間箇瀬村独自（講による）に構築された富士塚であり、その伝播は江戸川を遡り徐々に伝播したものではなく、「高田富士塚」から直行伝播したものである。

東葛飾地方江戸時代創建富士塚は、関宿町「飯塚富士」に次いで、五十一年の空白を置き、中期末の天保四年（一八三三）築の習志野市「藤崎富士・富士講」、次いで、弘化三年（一八四五）の船橋市「子神社富士塚・富士嶽登山講」であり、嘉永七年（一八五四）築の八千代市「大

「三咲神社富士」頂上「富士浅間大神」碑（大正三年）。溶岩正面若干敷設、切石敷直線登山道、「小御嶽大神」碑（昭和十年）。

「仙元神社富士」頂上「浅間神社」碑（大正二年）。階段、「浅間神社」碑。

「中谷原日枝神社富士」頂上「浅間大神」碑（大正元年）。石敷直線登山道、「小御岳神社」碑、「食行身禄尊師」碑、「角行尊師」碑、「宝永山」碑（大正元年）、「大願成就」碑（昭和三年）、小鳥居、「大山祇神」祠（寛永二年）。

「文京日枝神社富士」（昭和改築）頂上祠（無銘）。溶岩被覆正面若干、切石階段、「小御嶽神」碑、「建築　黒砂石弐拾四個寄付」（大正七年）、「昭和三十七年改築」碑、「昭和四十七年改築」碑。

昭和創建塚

「飯山満大宮神社富士」頂上「浅間神社」祠（昭和参年）。全面溶岩被覆、屈曲登山道二、胎内（正面裾・内部に角行東覚？・食行身禄？二石像安置）、「小御嶽神」碑、「□□□□神」碑（文政十亥年）、「北口登山三十三度大願成就御禮一度　明治四十一年迄」碑（明治四十二年）、「蒟蒻神社」碑（昭和三年富士御務講社）、「藤森稲荷」碑、「御内八海」碑、「御八海」碑、「亀石蓬莱」碑、「不浄流」碑、「内守稲荷」碑、「不動澤」碑、「鬼澤」碑、「首杖流」碑、水盤、鳥居（明治四十一年）、「御山改築　発起者御務講社」碑（昭和三年竣工）、「富士浅間神社改築費寄付」碑（昭和三年）。

明治四十一年迄の登山三十三度は明治九年まで遡るが、碑の多くは塚面に貼付のため該当年代碑は確認できず創建年代は不明であるが、初期富士塚に散見する富士山関連碑が多く、明治初期の創建も考慮される。

「前広神社富士」頂上「富士浅間大神」碑（昭和十五年）。中腹以上溶岩被覆、屈曲登山道、合目標識、「小御嶽神社」碑（昭和二十八年）、鳥居。

構築年代不詳

「神明神富士社富士」頂上「仙元宮」碑（無銘）。溶岩被覆正面若干、屈曲石敷登山道二、「小御嶽」碑、「御中渡大願」（明治十年）、「北口登山十二度」（明治十年）、灯篭（御神燈・慶応元年）。

本塚は、明治十年までに十二度の富士登山をなし、その初登山は慶応二年に遡る年代になり、灯篭在銘の慶応元年と、略々、一致するが、初登山の時点で必ずしも富士塚を構築するのではなく、江戸時代の「小御嶽」碑銘は「石尊大権現」が付されるのが一般的でもあり、(注5)（伝）江戸創建は否定できる。

以下、富士塚の必要要素である諸施設、石像物を抽出瞥見すると、

一　塚表面の「溶岩」敷設は、富士塚の規範である全面被覆は、江戸創建一例（同時期塚の一三％）、明治四例（同二九％）、昭和一例（同五〇％の六例で、全塚の二一％を占めているのみである。しかし、富士山の溶岩は五合目付近以上の高所存在の事実の見地から、塚頂部付近溶岩敷設などを含めると全十七塚例に敷設され、江戸創建塚三例（同時期塚の三八％）、明治創建塚十例（同七一％）、大正創建塚二例（同五〇％）、昭和創建塚二例（同一〇〇％）の全塚の五九％をの過半数に溶岩敷設している。

二　「胎内」―富士講の開祖角行東覚の溶岩洞穴修行場―の構築は、江戸創建塚一例、明治一例、昭和一例の三例で、全塚の一〇％を占めるに過ぎない。昭和構築の飯山満大宮社例は、内部に「角行・食行」像を置く富士塚の唯一例でもある。

三　登山道構築は、本来の形態である屈曲登山道に構築されるのは明治八例、昭和二例、時期不詳塚一例の十一例で、全塚の三八％に付設されるが、これに準ずる石敷屈曲階段上登山道を含めると、江戸創建塚二例（同時期塚の二五％）、明治は十一例（同時期塚の七九％）の全十六

天宮」祠（文延十丁亥）、石神像（延宝元年）。境内に「昭和二十年代」移転碑。

「清水富士」頂上「参明藤開山」碑（明治九丙子）。屈曲登山道、「小御岳神社」碑、「三國第一山　大正九年」碑、水盤（明治三十九丙年）。

「須賀神社富士」頂上「浅間大神」碑（明治十七年）。頂部付近溶岩被覆、屈曲石階段状登山道二、「小御岳岩長姫之神」碑、「食行霊神」碑、「天照皇大神」碑、他碑片五。

「香取神社富士」（昭和修築）頂上「富士山浅間大神」碑（明治十四年）。溶岩被覆、屈曲切石階段状登山道二、「小御嶽神社」碑、「栗島大神宮」碑（嘉永七年）、「栗島大神」碑（明治二十年）、「栗島大神碑（明治三十九年）、「厳島神社」碑（明治三十五年）、神像彫石（寛文□年）。

「西深井富士」頂上「浅間大神」碑（明治十六年）。頂部若干溶岩敷設、屈曲階段状登山道、合目標識、「身禄霊神」碑（明治十六年）、「地蔵」碑（享和元年）、「青面金剛」碑（文化十五年）、鳥居。

「浅間神社富士」頂上「富士浅間大神」碑（明治十九年）。部分的溶岩被覆、屈曲階段状登山道二、合目標識、お中道（右側中腹部）、胎内「小御岳神」碑、「富士森稲荷」碑、「御座石浅間」碑、「小室浅間社」碑、「□□浅間両社」碑、「天宇受賣命」碑、「稲荷神社」碑、「稲荷大明神」碑、「正一位稲荷大明神」碑、「猿田彦大神」碑、「一ノ嶽」碑、「久源志神社」碑、「彌都波能賣神□」碑、「大囮主命」碑、「御岳神社」碑（明治三十三年）、「浪割船玉宮　水神宮　大杉明神」碑（慶応四辰年）、「鳥居御大典記念」（昭和三年）、「再建紀年」（□参十三年）、鳥居、灯篭（安永二癸）。

「駒形神社富士」（大正改築）頂上「浅間大神」碑（明治二十六年）溶岩頂部被覆、屈曲石敷登山道一、「□祖霊神」碑、「奉献　敷石幟架記念」（大正六年）、「大山津見命」碑（大正四年）、「磐長姫命」碑、「阿夫利大神」碑、「登山記念」碑（大正二年）、「富士登山記念」碑（昭和八年）、他無銘碑。

大正六年の敷石幟架は改築を示すものであろう。(註4)

「夏見日枝神社富士」頂上「仙元大菩薩」碑（無銘）。「仙元宮」碑（明治五壬申年）、「□仙□　明治五……　大願成就」碑、「仙元大神御中道御内八湖登山二十六回大願成就」碑、「小御嶽石尊大権現」碑（明治三十年）、「浅間大神大願成就」碑、鉄製灯篭。

「馬立大宮神社富士」頂上「浅間大神」碑（明治十三年）。大谷石階段、「小御嶽神社」碑、「－上部磨減－三猿彫像」碑、「三十三度大願成就」碑、鳥居（昭和四十八年）。

「長須日枝神社富士」（昭和改築）頂上「富士嶽太神」祠（明治十一年全面溶岩被覆、屈曲石敷登山道、「小御岳大神」碑、「昭和二年本社再築記念」碑、鳥居基部・鳥居・狛犬片で塚裾部の土留に利用。

「伊豆島日枝神社富士」頂上「富士神社」祠（明治三十四年）。屈曲登山道二、「小御岳神社」碑、灯篭。

「請西八幡神社富士」（昭和改築）頂上「富士山」碑。溶岩頂上碑周辺敷設、曲登山道、胎内（木花開耶姫石像安置）、「小御岳」碑、「富嶽出現乙未初元　聖徳太子上山之躰－聖徳太子騎馬彫像－」碑、「宝永山」碑、「湧泉」碑、「磐石」碑、「移転記念」碑（昭和十八年）、「五十年祭記念」碑（大正十五年）、「大願成就」碑（明治二十二年）、水盤（明治十年）。

「横田神社富士」頂上（昭和修築）「木花開耶姫命　大山津見命　彦穂瓊々喜命」碑（明治十四年）。溶岩頂部若干敷設、切石階段、「参藤開山　角行　食行」碑（明治廿五年）、「浅間神社霊」碑（昭和十四年）、「浅間神社奉納鳥居」碑（昭和四十年）、富士登山記念碑（昭和五十三年）。

大正創建塚

一体、富士塚の構築年代は塚頂上の主神碑銘から、あるいは、関連碑銘からその年代を推察しなければならない。

富士塚自体に具備される諸施設と、塚上の裾部に設置される石像物などの諸要素が初現の「高田富士」以来の規範であるが、近隣における江戸時代以降の諸富士塚は、創建、再建にかかわらず多くその規範を満たすものではない。最も普遍性を有する「小御岳神」碑も、東京・埼玉共に五〇％前後の塚に遺存するに過ぎない。

塚自体に具備される諸施設は構築時点に具備せねばならない。塚上の石像物は、必ずしも創建時点で全てを設置するものではなく、直接富士信仰と関連なき碑をも含め後年の追加が可能であるが、と同時に、後世の消失も考慮しなければならない。しかし、構築時点に具備せねばならない塚自体に具備される諸施設は改修築による消滅以外になく、また、改築に当たり前形態・諸石像物を踏襲される可能性が考慮できる。

房総富士塚の創建年代から見た、塚に伴う諸施設と遺存する石像物は左の如くである（富士塚一覧表）。年号無記載碑は、無銘または近年の修改築により、碑を塚面に固定貼付し確認不可による。

江戸創建塚

「飯塚富士」（明治再築）頂上「浅間神社」（明治十二年）碑。溶岩被覆頂部に若干、屈曲石階段状登山道一、合目標識？（小石柱・天明三年）、お中道（裾部）、「小御岳神」碑（明治十二年）、「元祖霊神」碑（明治十一年）、水盤（元禄庚午年）。

「藤崎富士」頂上（昭和改築）「富士山□□」碑（村中安全　天保四巳）。溶岩全面被覆、屈曲石階段状登山道三、胎内（右裾）、「小御岳石尊大権現」碑、「高尾山飯綱大権現　小田原道了大権現　大・小天狗」碑（元治元甲子）、「大山阿夫利神社」碑、（昭和六年）、「十二薬師」碑、「登拝記念」碑（昭和六十一年）、水盤（昭和□年）。

「子神社富士」（昭和改築）頂上「浅間大神」祠（明治三十九年）・「仙元宮」祠（弘化三丙午年）。屈折石敷階段、「御小岳石尊大権現」碑（弘化三丙午年）、「昭和五十六年移転」碑。

「八王子神社富士」頂上「仙元宮」碑（元治元甲子）。溶岩敷設頂部付近階段（昭和改築）、「小御岳石尊大権現」碑（元治甲子）、「元祖食行身禄」碑、狛犬石像。

「大和田富士」頂上「仙元□□」祠（嘉永七□）。曲線階段（昭和改築）、「足尾山大権現」祠（□□□十月）。

「宇土橋富士」頂上「富士浅間大菩薩」碑（文政五年壬午）。「富士嶽大神」碑（明治十五年）、「角行尊」碑、「富士登山記念」碑（自大正八年）。

「牛久神社富士」（明治改築）頂上「仙元大菩薩」碑（嘉永二年）・「浅間大神　盤長姫命」（明治四辛未年）。溶岩被覆若干、登山道？、「高祖角行尊　元祖食行霊」碑（明治十六年）、「小御岳石尊大権現　大・小天狗」碑。

「今津朝山八幡神社富士」頂上「富士浅間神社」碑（文政七甲申年）屈折石敷階段（昭和改築）、「小御嶽石尊大権現　大・小天狗」碑。

明治創建塚

「東宝珠花日枝神社富士」（昭和改築）頂上「浅間大神」碑（明治九年再建）。溶岩全面被覆、石階段状登山道屈曲二・直線一、「小御岳神」碑（明治九年）、「食行霊神」碑（明治十一年）、「元祖霊神」碑、「不二森稲荷大神」碑、「浅間大神」碑（明治八年亥）、「浅間大神」碑（□十八年）、「宇賀仁神社　琴平神社」碑（明治四十二年）、他碑片、狛犬、灯篭（安永四天）。

「八坂神社富士」（昭和改築）頂上「浅間大神」碑（明治十二年）。正面溶岩被覆、登山道屈曲一・直一、「小御岳神」碑（明治十二年）、「元祖霊神」碑（明治十二年）、「稲荷神……」碑（明治十二年）、「雷電神社　天神社」（明治三十三年）、「庚申」碑、「稲荷」祠、「水

房総富士塚考

野村幸希

（一）はじめに

中近世以降、日本各地において多種多様の民間信仰が発生している。これらの民間信仰のなかにあって、その信仰の具体的モニュメントを現在に伝え残す信仰行為は多くはない。

その顕著なモニュメントに、中世以降民衆化し現世利益の行為化した「経塚」があり、また、路傍に鎮座する各種の神仏石像・碑からその信仰の多様性が窺い知ることができる。

さらに、出羽三山、男体山、白山、御嶽山、戸隠山、金峰山、など古来、崇敬と畏怖により多くの峰高き山々が自然信仰の対象となり、中世に仏教と混合し、碑を始めとしたモニュメントを伝え残している。

近世に入り、民衆済度から発生した「富士講」は安永八年（一七七九）江戸高田に「富士塚」が構築されて以来、江戸を中心にその周辺に影響を及ぼし、武蔵国内には顕著にその存在が知られる。(註1)

房総地方においても、近世の民間信仰の痕跡が各地に止め、特に山岳信仰、三山碑は少なからず散見でき、また、三山信仰を示唆する塚の存在があり、さらに、信仰の具体的モニュメントと想定できる信仰名、神仏名を冠した塚が遺存している。(註2)

一方、房総地方の「富士塚」の存在は多く周知されていない。

多くの信仰上の塚を構築した房総の人々が、江戸川右岸で盛況した富士信仰がどのように反映したか、房総「富士塚」の実態を把えてみたい。

（二）外部施設と構築年代

房総の初現の富士塚は、江戸時代中期、天明二年（一七八二）構築と伝えられる千葉最北部に位置する、東葛飾地方の関宿町飯塚地先の路傍に存する「飯塚富士塚」である。

初現の富士塚である東京新宿・水稲荷神社境内に「高田富士塚」が安永八年（一七七九）に構築後、僅か三年後の構築と伝えられている。

「飯塚富士塚」は、明治十二年建立の『浅間祠重修記』に「葛飾郡木間箇瀬村浅間祠一宇雖未群其創始歳月観郷人称其地為浅間窪則所由来之久可知而既以窪呼則其地汗陋無足観亦可椎而知矣天明二年春郷豪岩本祐直－略－起土山擬富士山建祠于其頂－略－明治十年偶有暴風雨祠宇傾懐－略－数十人黄畚荷撹惣増築土山一丈余昔時－略－」とあり、創建者五世の孫による明治時代の改築である。

創建時点と相違はあろうが、径二〇メートル、高八メートル大の大型構築である創建形態を遺存する文京区護国寺境内「音羽富士塚」・豊島区高松「長崎富士塚」・練馬区小竹町「江古田富士塚」と同規模で、形態も富士山に近似させた江戸時代的形態を伝える富士塚である。(註3)

「飯塚富士」は、江戸府内で第二番目の構築である、渋谷区鳩森神社境内所在の「千駄ヶ谷富士塚」の寛政元年（一七八九）構築を七年も遡る早期の出現でもあり、江戸府内を超越してかかる地理的遠隔にある地に史上二番目の富士塚がいかに出現したのであろうか。

「飯塚富士」の創建年代「天明二年」の碑は遺存せず、塚裾登山道脇に設置された一七センチ角、露出高四〇センチの「天明三年」・「本間岩本治平」在銘の合目標識と想定できる小石柱が唯一である。奉納は創建者と同一の木間箇瀬村　岩本氏であり、他所より移転碑とは考え難く、天明期の創建と肯定出来るものである。